

クルアーンの内容 (2) : 逸話的啓示その2

1, ヘレニズム的・ユダヤ教的・キリスト教的逸話

- ・「二本角」≡アレクサンドロス大王（紀元前323年没）【18「洞窟」：82(83)–98】
 地中海・西アジア地域に流布していたアレクサンドロス伝説の神による真実の解き明かし
 (例) ヤージュージュ (ゴク) とマージュージュ (マゴク) に対する防壁の建設
 《創世記(10:2)》、《エゼキエル書(38)》、《ヨハネの黙示録(20:8)》等に基づく
 ユダヤ教・キリスト教的アレクサンドロス伝説を踏まえていることは確実
 (山中由里子『アレクサンドロス変相』109)

- ・「洞窟の人々」【18:8(9)–21(22)】
 ≡「エフェソスの7人の睡眠者」
 舞台：ローマ皇帝デキウス（在位249–251）→ テオドシウス2世（在位408–450年）
 迫害を逃れて洞窟に隠れた7人のエフェソスのキリスト教徒の若者
 睡眠（約200年間）→ ローマ帝国のキリスト教国教化後に覚醒、
 人々を祝福 → 睡眠
 エフェソス主教ステファノス（在位448–451年）が創作した奇跡譚？
 ギリシア語、ラテン語、シリア語、エチオピア語、コプト語などで流布
 キリスト教聖者列伝に伝わる伝説に関する神の解き明かし
 イベリア半島から中央アジアに至る広い地域に、件の洞窟とされるものが点在

意味：ユダヤ教徒、キリスト教徒のムハンマドに対する論難への神による回答の指示
 神の全知性の証明とムハンマドがその預言者であることの証明

2, 折衷的逸話

- ・ヒドル (ハディル) al-Khidr/Khadir الحِذْرُ
 楽園の「生命の泉」の水を飲んだため終末まで生き続ける
 → 地上をくまなく巡り、あらゆる知識を持つ

ムスリム居住地域のほぼ全域で聖者として崇敬を集める

水と関連した奇跡

井戸の発見や航海の安全などに功德

元ネタ：シュメールのギルガメシュ叙事詩、アレクサンドロス伝説の「生命の泉」譚、

エリヤとラビ・ヨシュア・ベン・レヴィに関するユダヤ教伝説など

・預言者モーセとの不可思議な旅【18: 59 (60) – 81 (82)】

モーセがヒドルに教えを請い、ともに旅をする

ヒドルの理不尽な行動：船底に穴を開ける、何もしていない少年を斬り殺す

崩れかけた塀を無償で修理する

→ モーセの困惑とヒドルの説明

意味：神智の理不尽さ＝神と人との隔絶

神を信じ、絶対的に服従することの難しさ

【天と地の秘儀はアッラーの御手にあり、一切のもの悉くその御もとに還り行く。

されば、（アッラー）を崇めまつるがよい。すべてを挙げてお縋り申すがよい。

主はお前たちの所行を見遁しはなさないであろうぞ。（11: 123）】

参考文献

山中由里子『アレクサンドロス変相』名古屋大学出版会、2009年